

順位	氏名（議席）	発言の要旨
19	笹川 朝子（13）	<p>1. 教員の長時間労働及び教員不足について</p> <p>教員の長時間労働、教員不足が大きな問題になっています。日本共産党は、このままでは学校がもたない—教員残業代ゼロ制度の廃止と、授業に見合った教員定数を発表しました。</p> <p>旧文部省及び文部科学省の教員勤務実態調査から、週当たり残業時間の1966年と2022年の比較では、小学校は1時間20分が20時間34分、中学校では2時間30分が25時間14分と大幅に増えています。</p> <p>教員の長時間労働が、授業準備や子供と向き合う時間がない、精神疾患による休職者が増加、教員不足で新学期から担任がいないなど、教員にも子供たちにも深刻な事態をもたらしています。その要因は、週5日制になったのに教員が受け持つ授業のこま数の見直しがされず、教員定数が少なすぎることや、公立学校の教員には残業代を払わなくてよい制度となっていることなどです。</p> <p>やってもやっても仕事が終わらない。教員の数と仕事量がアンバランス。定数の未充足や産休、育休などの欠員が埋められない。全国の公立学校の教職員未配置が、昨年10月1日時点で少なくとも4739人に上ることが、全日本教職員組合の調査結果により出ています。2016年の調査開始以来、過去最多の結果ということです。文部科学省が昨年末公表した調査では、2023年度に鬱病などの精神疾患で休職した公立学校の教員が、統計を取り始めた1997年以来初めて7000人を超えました。</p> <p>全日本教職員組合の役員は、教員不足により労働環境の悪化と子供たちの教育を受ける権利が侵害され、学校生活や心の不安などに影響を及ぼしていると指摘しています。子供たちに行き届いた教育の実現のために、本市での状況について以下質問します。</p> <p>(1) 小中学校の学級担任は、平均週何時間の授業を受け持っているか。</p> <p>(2) 定員に対して欠員はあるか。</p> <p>(3) 産休、育休に対する補充はできているか。できていない場合、何校で何人不足しているか。</p> <p>(4) 病気や精神疾患などによる特別休暇を取得している教員はいるか。いる場合、何人か。</p> <p>(5) 教員不足の状況はあるか。ある場合、どのような対応をしているか。</p> <p>2. 学校給食の米飯について</p> <p>学校給食の米飯は、自校炊飯ではなく業者からの購入で、市内1か所と富士宮市、静岡市、函南町の業者が配送し、給食は自校式だが主食の御飯は業者からの購入となっています。遠方からの配送、早朝からの作業など人件費やコストの観点から見直すべきと考え、以下質問します。</p> <p>(1) 自校給食を実施しているにもかかわらず、主食の御飯を業者から購入する理由は何か。</p> <p>(2) 米飯1食の単価は幾らで契約しているか。</p> <p>(3) 静岡市や函南町の業者は、何時頃から作業に入り、配送の出発時間と学校に到着する時間は何時頃か。</p> <p>(4) 給食室のリニューアルが進められているが、自校炊飯を取り入れる考えはあるか。</p> <p>(5) 昨年12月から約1か月間、富士市産米を給食に提供していた。今後、提供できる期間を延ばすことは可能か。</p>